

2025 年 10 月 10 日 第 3529 回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 山下 会長

<斉 唱> 「我等の生業」

<ゲスト紹介> *ラグビー元日本代表選手 大野 均 様

*中崎 朋子 様

*福本 佐衣里 様・福本 海太 君

<ビジター紹介> *横浜南央ロータリークラブ

会長 持田 誠吾 様

地区奉仕委員会副委員長 齊藤 剛人 様

幸貞 治 様

片田 雅人 様

<会 長 報 告> *ガバナー事務所より

・ロータリーレート変更のお知らせ 10月1日から1ドル147円⇒149円

・2028～2029年度ガバナー・ノミニー選出の件について

・2028～2029年度ガバナー・ノミニー候補者提案に関する告知について

・インターアクト台湾研修参加者確定のご案内について

三浦学苑インターアクトクラブより

清水瑠都さん（1年生）・浦崎穂佳さん（1年生）参加

<委員長報告> *ロータリーアクト委員会 権田委員長より

横須賀RAC創立50周年記念例会 報告

<幹 事 報 告> *ガバナー月新 No. 3

*親睦旅行会費振込依頼について

*国際ソロプチミスト横須賀主催 宮本史利オータムコンサートについて

11月9日(日) 13:30 開場 14:00開演

会場：メルキュールホテル横須賀「パリ」 6,000円

*例会終了後第4回理事役員会開催

<出 席 報 告> *出席委員会 森委員長から10月10日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	マークアップ数	出 席 率
112名	106名	70名(5名)	36名	8名	73.58%

マークアップ：植田、臼井、岡田(英)、兼城、齋藤(眞)、高橋(隆)、真野 各会員 横須賀RAC出席
小保内会員 地区委員会出席

<ニコニコ報告>

・横浜南央ロータリークラブ様 横浜南央ロータリークラブより本日4名で伺いました。よろしく
お願い致します。

・三 役 ラグビー元日本代表選手 大野 均様、本日はようこそお越し下さいました。
今日は大野選手の大ファン中学生の海太君も駆けつけてくれました！卓話楽しみにして
おります。

・木 村、石 田、杉 浦、谷、北 村、吉田(久)、江 口、渡 邊、
井 上、勝 見、野 坂、松本 惲、笠 木、前 田、小佐野、鈴木(健)、
田 中、森、徳 永、田邊、齋藤 惲、根岸、澤田、川名、三堀、萩原、八木 各会員

本日のゲスト、ラグビー元日本代表選手 大野 均様、ようこそお越し頂きました。

本日の卓話「弱小チームからワールドカップで勝つまで」ととても楽しみにしています。

・三 役 横浜南央RC 持田誠吾様、齊藤剛人様、幸 貞治様、片田雅人様、本日はようこそ
お越し下さいました。皆様をお迎えするのに相応しい青空例会はもちろん、横須賀の

町もお楽しみ頂けましたらと思います。

- ・ 三 役 本日のゲスト中崎朋子様、福本佐衣里様、福本海太様、本日のビジター横浜南央ロータリークラブ会長 持田誠吾様、地区奉仕委員会副委員長 齊藤剛人様、幸 定治様、片田雅人様、ようこそお越しくださいました。例会をお楽しみください。
- ・ 萩 原、小林 隼、吉田 備 各会員 誕生月祝いとして
- ・ 山 田、小佐野 両会員 入会月祝いとして
- ・ 権田ローターアクト委員長 10月4日(土)、横須賀ローターアクトクラブ創立50周年記念式典を無事に開催できました。準備にご協力いただいた会員、ご出席をいただいた会員、本当にありがとうございました。
- ・ 大野 隼、堀 川、八 巻、佐久間、北 村、竹 株、角 井、小 澤、齋藤 隼、権 田、上 林、田 邊、椿、藤 村、小林(-)、川 名 各会員
10月4日開催されました横須賀ローターアクトクラブ50周年記念例会、お疲れ様でした。当日は登録数が120名を超え大変盛り上がりました。ローターアクトの若手メンバーはもちろん、権田委員長をはじめとする委員会の皆様、ロータリークラブ会員と事務局、素晴らしい式典、懇親会ありがとうございました。
- ・ 加藤(淳) 国際奉仕委員長 11月22日(土) 釣り同好会企画の城ヶ島海上釣り堀を開催致します。当日はチトワンRCの皆さんも参加し楽しい一時を過ごす事ができますので、ご参加申込みお待ちしております。
- ・ 高橋 隼、梶 木、小山 隼、柴 田、池 田、松 川、齋藤 隼、川名 各会員
高校野球軟式神奈川県秋季大会、三浦学苑が見事優勝V4を果たしました。今月24日から始まる関東大会も応援しています。

<卓 話>

「弱小チームからワールドカップで勝つまで」

ラグビー元日本代表 大 野 均 様



ラグビー元日本代表の大野均です。本日はこのような機会をいただき、誠にありがとうございます。今日は私自身のラグビープレイヤーとして、今まで歩んできた道のお話しさせて頂きたいと思います。ただいまご紹介いただきました田中由紀子さんとは、お互い20代の頃から僕の友人を交えながら一緒にお酒を飲んでいたつながりで、このような機会いただきました。誠にありがとうございます。現在私は、東芝ブレイブルーパス東京というラグビーチームでアンバサダーをしています。2020年の5月に42歳で引退するまで東芝ブレイブルーパスの選手として238試合に出場しました。又、日本代表としては2004年から2017年まで13年間プレーし日本代表の歴史で最も多い98試合に出場しました。このことを話すと、子供の時からラグビーをしていたというふうに思われるのですが、私がラグビーを始めたのは大学生になってからでした。私は小学校から野球を始め、高校まで野球一筋でした。読売ジャイアンツが大好きで、同じ福島県出身の中畑清さんが私のヒーローでした。野球は中学、高校まで続けましたが、なかなかレギュラーとして試合に出ることはできませんでした。小学生の時から身長は周りより高く、野球の試合中補欠でベンチに座っている私を見た対戦相手の選手達は、あのベンチに座っているでっかいやつはチャンスで代打で登場する秘密兵器だというふうに囁かれ

め、高校まで野球一筋でした。読売ジャイアンツが大好きで、同じ福島県出身の中畑清さんが私のヒーローでした。野球は中学、高校まで続けましたが、なかなかレギュラーとして試合に出ることはできませんでした。小学生の時から身長は周りより高く、野球の試合中補欠でベンチに座っている私を見た対戦相手の選手達は、あのベンチに座っているでっかいやつはチャンスで代打で登場する秘密兵器だというふうに囁かれ

ていたみたいですが、その秘密兵器は試合終了まで秘密のままのことも沢山ありました。それでも野球が好きで、大学進学後も野球を続けたいと思っていました。しかし、大学入学直後私の運命を大きく変える出会いがありました。それがラグビーとの出会いです。私の大学のラグビー部は部員数が20人ぐらいしかなくて、怪我や大学の授業で参加できない選手がいると15人グラウンドに揃わない時もありました。しかし私たちは人数が少ないことを言い訳にしないでどうやったら勝てるかどうかやったら強くなれるか、上級生下級生関係なく本気で考え、意見を出し合い、ラグビーに真剣に向き合いました。そしてどんなに辛くてしんどい時でも、仲間のためにグラウンドに立ってチームのために体を張る。そんなラグビーに最も必要な部分の強さを、私は大学のラグビー部で教わり、身につけることができたのだと思います。大学時代は青々とした芝生のグラウンドで試合ができることはまれで、主に土のグラウンドが僕たちの日常でした。ある時は試合をするグラウンドに着いたら、石ころやガラスの破片が落ちていて、試合前に相手チームの選手たちと石ころ広いから始めたこともありました。グラウンドに到着し、グラウンド脇でさっと着替え試合をして、試合の後は水道の水で泥を洗い流して帰り道につく。今思うと、恵まれない環境でラグビーをしていたと思いますが、当時はそれが僕たちの日常で、そんな逆境の中で仲間たちとラグビーをしていることがとても楽しかった思い出となっています。四年後、東芝にラグビーで採用され入社したにも関わらず、当時のラグビー部の監督から大野はラグビーはド素人だと言われるほど、ラグビーに関しては無知でした。しかし、ラグビーを媒体として大学のチームメイトたちから私は本当にいろんなことを学び感じそして考えさせられました。私はこの弱小ラグビー部だったからこそ、今の自分があると信じています。ラグビーを始めた時、まさか自分が日本のトップチームでプレーできるなどとは微塵も思っていませんでした。しかし目の前の一回一回の練習を真剣にがむしゃらに取り組んできたからこそ、トップのチームでプレーするというチャンスを掴むことができたのだと思います。そして、2004年には日本代表にも選出され、国を代表して世界と戦う舞台に立つことができました。日本代表として2007年、2011年と二度のワールドカップに出場し、勝利を目指しましたが、結果1勝もできず。苦い思いが残った二度のワールドカップが終わりました。2012年、34歳という年齢で迎えた私は体力的にはまだまだやれる自信はありましたが、日本代表の新しいヘッドコーチが、その4年後のワールドカップに向けて私を招集してくれるのか正直自信はありませんでした。エディ・ジョーンズという人の名前を聞いたことがある人だと思います。新ヘッドコーチとなったこの人は、私を再び日本代表へと招集してくれました。エディさんは世界的な名コーチ、2003年にはオーストラリアを率いてワールドカップ準優勝、2007年にはアドバイザーとして南アフリカ代表の優勝に貢献。2012年から2015年まで日本代表を率い、2019年には日本で開催されたワールドカップでイングランドを率いて準優勝し、そして2024年から再び日本代表のヘッドコーチに戻ったラグビー界の名将です。エディさんの課す猛練習は、世界のラグビー界にも知れ渡っていました。自分があと四年間、その猛練習に耐え、再びワールドカップの舞台に立てるのか正直自信が持てませんでした。しかし、それと同時に、いつか外されるのならその外される時を少しでも遅らせてやろう。エディさんに大野はもう少し日本代表に必要なと思わせられるよう、今まで以上に代表としての一日一日を大事にしようという思いが湧いてきました。そういう気持ちで、2015年に向けてのハードな日々がスタートしました。日本代表といっても、初めは色々なチームからの寄せ集めです。そんなチームがいかにか一つとなり、ワールドカップを戦ったのか。そこには君が代の存在がありました。私はこれまで日本代表として4人のヘッドコーチのもとでプレーしてきました。どのヘッドコーチも厳しい練習を課していましたが、エディ・ジョーンズほど緻密に管理し、勝つための準備をしてきたヘッドコーチはいませんでした。このように様々なハードトレーニングを積み重ねながら、ついにワールドカップイングランド大会の2015年を迎えました。2015年ワールドカップの当時、私は37歳。普通であれば、ラグビー選手としてのピークを越えていると思われる年齢です。それでも、ほとんどが20代の若い選手たちと体をぶつけ、汗をかき、もがきながらも必死の思いでワールドカップ最終メンバーの切符を掴むことができました。そして私が日本代表として国際試合に出場した96試合目が、2015年に行われたワールドカップの南アフリカ戦でした。それまで95試合の国際試合に望み、37歳という年齢を迎えていたその試合が、まさか自分の選手キャリアにおいて最も輝かしい結果となり、日本のみならず世界中の人から感動したと言ってもらえる世紀の番狂わせになるとは試合前の当時の自分は想像もできませんでした。2019年、2023年とワールドカップで二連覇を達成している南アフリカですが、2015年当時の南アフリカもすでにワールドカップ優勝2回、世界ランキング2位の優勝候補で、対する我々日本代表はそれまでのワールドカップでたった1勝しかできていませんでした。

た。試合の行われたイングランドの新聞は、試合と試合前日の記事で日本代表が南アフリカ代表に勝てる可能性は1%もないという記事を載せていました。要するに、世界中のラグビーファンが日本代表が勝てるわけがないと思っていたと思います。しかし、その考えが間違いだったということを世界に示すことができたのは、辛くても逃げずに目の前の練習に向き合ったハードワークの積み重ねでした。それでも南アフリカ戦の数日前までは四年間これだけのトレーニングを積み重ねてきて、それでも70点、80点差をつけられて負けたら、もう日本がワールドカップで勝てる日は来ないのではないか、誰も日本のラグビーを見てくれなくなるのではないかと、という漠然とした不安に襲われることもありましたが、でも、私たちはこのワールドカップのために世界一厳しいと言われた練習を四年間積み重ねてきたこと、それだけを自信にこの試合に臨みました。2019年に日本で開催されるラグビーワールドカップを成功させるためにも、2015年のこのワールドカップで何かしらのいい結果を残さなければ、自国開催のワールドカップの成功はなし得ないという危機感を、当時の日本代表メンバー全員が秘めていたからこそ、過酷なハードワークに取り組み、それを乗り越え、世界に大きなインパクトを与えることができたのだと思います。そこにはもちろん、チームスタッフの大きいサポートがあったことは言うまでもありません。選手だけでなく、スタッフを含めたチームの全員がワンチームとなり、ハードワークをして勝ち取った勝利でした。四年前は自分自身も不可能だと感じていたワールドカップへの出場、そして南アフリカ代表撃破を実現できたことで、できない、不可能だと思っていることでも、自分の思いと努力次第で可能にすることができるのだということを身をもって体験することができました。今日お集まりの皆さんも自分を支えてくれている周りの人や環境に感謝しつつ、覚悟を持って責任ある仕事に取り組み、自分の中の情熱を注げる未燃物を探して、常に自分に熱を感じながら素敵な人生を送っていただけたらと思います。以上で私の講話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

※内容を省略して記載しております。

<閉会・点鐘> 13:30 山下 会長

週報担当 高橋 岐 武